

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772500423
法人名	特定非営利活動法人 縁21
事業所名	グループホーム かなめ
訪問調査日	平成 20 年 10 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 17 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772500423
法人名	特定非営利活動法人 縁21
事業所名	グループホーム かなめ
所在地	大阪府池田市室町4-37 (電話) 072-752-7695

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年10月6日	評価確定日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成20年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	15 人	常勤 1 人, 非常勤 14 人, 常勤換算	6.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(315,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1250 円			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田回生病院、本町診療所、河合歯科、おおたクリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急池田駅近くの閑静な住宅街に位置する定員6人の小規模なグループホームである。2階に知的障害者グループホームが事業母体のNPO法人により併設されている。地域の中で当たり前に暮らすことを支えるケアを事業所理念の中心に掲げ、近隣住民との連携・交流も前向きな取り組みが見られる。ホームでの生活は日々の役割や楽しみごとなど、張り合いを持ってその人らしく過ごせるよう、利用者の人格の尊重をした支援が進められ、穏やかな日常生活が保持されている。協力医療機関との連携も、安心できる支援体制が築かれている。開設から7年半経過し、この間の理念に基づいた豊富な実践経験を基盤として、今後は認知症ケアの新たな進展に向けて管理者・職員が一体となった着実な取り組みを期待した。

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部)</p> <p>前回の改善課題の要旨は①運営推進会議の開催頻度の増回の期待、②年間研修計画による職員の段階的スキルアップの取り組みの期待、③同業者との交流促進、④介護計画見直しの期間の検討、⑤避難訓練時の地域との協力・連携、の5項目であった。③、④、⑤は改善が図られている。①、②は引き続き工夫・検討が望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者・全職員一体となって各項目の検証評価を実施している。職員は外部評価の意義を理解し、年間の業務の具体的改善への見直しの機会と位置付けて真摯な取り組みがなされている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部)</p> <p>市担当職員、民生委員、自治会長、家族、職員等の参加で、本年はこれまで2回開催されている。会議ではホームの活動状況、行事計画、地域との交流内容、家族の要望・意見交換などが行われている。運営推進会議メンバーを身体拘束委員会としても活動していただくなど、積極的な取り組みが図られている。次回は11月の開催予定である。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情・相談受付窓口は重要事項説明書に記載し、説明がなされている。玄関入り口に意見箱も設置されている。家族の来訪の機会が多いので、職員は出来るだけコミュニケーションをとるように努めている。その際には個別の相談、意見・要望を聞き、毎月の会議等で対応策を検討しサービス計画に反映させ、結果を報告している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や近隣の店舗等への買い物などでの日常生活における地域との繋がりや、神社の祭りや、公民館での自治会の各種行事等へ参加している。近隣住民の参加も得て、ホームで茶話会や食事会での交流の機会を設けるなど、地域との交流に積極的な取り組みが行われている。</p>

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の基本理念として、「認知症であっても一人ひとり地域の中で当たり前暮らしながら、人としての尊厳を大切に生きていく」ことを支えるケアを中心にすえた理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関フロアに理念を掲示し、理念の共有をはかっている。月1回のスタッフ会議において、職員が理念を日々のケアに活かせるよう意識して取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入し、神社の祭り、公民館での行事への地域活動に参加している。近隣の住民にホームでの毎月の茶話会や食事会に出席して頂くなどの前向きな交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に外部評価の意義や目的の理解を図り、自己評価の実施を職員全員で行っている。外部評価結果をフロアに開示し、日常業務の確認・点検の機会として位置付け、改善の取り組みが図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は行政担当者、民生委員、自治会長、利用者・家族、ホーム長の出席で、外部評価の報告、ホームの活動報告、行事報告や、意見交換など話し合いが持たれ、サービス向上に活かしている。会議の開催頻度は、本年は2回(調査日現在)にとどまっている。	○	運営推進会議の内容は、地域密着型サービスの意義・目的に相応しい会議となっているが、基準省令には、概ね2ヶ月に1回以上開催と定められており、地域の支援と理解を深め、サービスの向上に活かすべく、会議の開催頻度の増回に向けての柔軟な工夫検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当部署とは、要介護認定更新の調査の調整、運営実務上の相談や介護保険情報の提供を得るなどの連携を行う機会がある。市の介護相談員の訪問を毎月1回受ける機会をつくり、事業所の運営とサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族も近隣の方が多く、来訪の際に利用者の近況や行事予定、生活・健康状況、金銭管理等を報告している。個別の連絡帳を作成し、来訪時に確認していただく方法も行われている。法人の通信紙や、「かなめ新聞」を発行し、暮らしぶりを報告する取り組みもなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は重要事項説明書に明記し、意見箱を玄関入り口に設置している。家族等の来訪時の面談で相談、意見などを把握して、ケア見直し等に反映している。毎年開催する敬老会の後に、開催する家族会でも意見、要望などを表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の意見や要望などを聞き、職員間のコミュニケーションを促進し、働きやすい職場作りに注力している。これまでに職員の離職は非常に少ないが、勤務シフトも基本的に変更しない対応で利用者の日常生活に混乱を生じないような配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に職員に促している。外部研修参加者には受講内容を会議等で報告してもらい内部研修と位置づけて職員間で共有を図っている。ホームとしての年間研修計画作成に基づく内部研修の取り組みはなされていない。	○	職員のスキルアップを図るために、内・外部研修実施の計画を立て、年間研修予定スケジュールを作成し、教育・研修実施を組織的に取り組む機会を設けることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年末より、市内のグループホーム関係の同業者と池田グループホーム連絡会を作り、意見交換、情報交換、相互見学など前向きな取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族との面談で、現状や生活暦を把握して過ごしやすい環境、人間関係をもてるよう配慮している。入居前に体験入居を行い家族との連携を密に行いながら、徐々に雰囲気に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活するなかで、掃除、食事の準備、片付け、洗濯物をたたんで頂く等、日々の暮らしで出来ることは利用者自身にして頂きながら、人生の先輩として学ばせて頂く姿勢を大切にして共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話を傾聴し、生活をともにする中での気付きを深め、希望や意向の把握に努めている。家族の思いも伺い、本人本位の暮らし方を大切にする検討に務めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の本人・家族等・関係者からの基本情報収集で意向・希望の把握や、職員の日常のかかわりの中での本人の情報などをもとに、スタッフ会議で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごと及び要介護認定更新時の見直しを基本とし、短期目標を3ヶ月に設定し、毎月のスタッフ会議での評価をもとに計画作成担当者が計画の見直しを図っている。状況変化時には随時、計画の変更、見直しは臨機応変な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携による定期往診をうけ、ホームでの健康管理がなされている。自費によるショートステイも取り組まれている。希望の方には美容院に同行するなど、柔軟に多機能的な支援の提供がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院の医師による隔週での往診がある。個別のかかりつけ医への受診は、家族による通院介助を基本としながら、職員が受診同行を行うなど、柔軟な対応が行われている。入院が必要な場合などは、本人・家族の同意の上で、状態に相応しい医療機関等への受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は家族やかかりつけ医と話し合いを行い、関係者全員で方針を共有している。「重度化および看取りについての指針」は作成されていない。管理者はホームとしての終末期ケアへの対応指針の必要性を認識されている。	○	入居期間が長期化し、認知症状態の進行とADL低下も徐々に進んできており、今後ホームでのケアが困難な事態になっていくことも考えられるので「重度化及び看取りの指針」を作成し、重度化した場合の状況に応じて本人、家族の意思確認と同意に基づく方針を共有する仕組みの検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は介助や言葉かけなどで、入居者のプライドを傷つけることのないように、個々のケアにおけるプライバシー対応に日々心がけ、スタッフ会議でも話し合われている。個人情報については全職員に守秘義務の同意契約を取り交わし、文書・記録等の保管、取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間、レクリエーションなど日常生活を、生活のリズムを考慮しながらも、個々の入居者の生活習慣やペースを大切に支援している。散歩や買い物の支援も、入居者夫々の、その日の希望や状況に応じて柔軟な取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、利用者の好みを反映できるように、日常的に食事の感想・評価を全員に行っている。食事準備や配膳など、可能な方の役割と力を活かしながら、利用者、職員が共に食事を楽しんで取り組めるような支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の夕方に入浴を基本としているが、本人の希望にあわせながら柔軟に支援対応している。拒否が強い方にも清潔の保持とリラクゼーションに留意して、無理強いせずに種々の工夫対応をしながら入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の生活歴、現在のできることを配慮して掃除や洗濯や食事準備等の暮らしの役割を持てるよう支援している。日々の生活に楽しみを活かせるよう、歌を歌ったり、ぬり絵、パズルなど一人ひとりが張りあいや喜びを味わえるような支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の神社への散歩、市場への買い物、花見、外食等楽しみごとを家族の協力を得ながら戸外へ出る機会を多く設けるように支援している。外出困難な利用者には車椅子支援をするなどして外出を楽しめるように配慮している。ホームの飼い犬と一緒に職員共々散歩される方もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵はしない。日中は玄関の施錠は行っていない。職員が見守りに留意し、安全性に配慮するとともに、日中鍵をかけないケアに取り組む努力と、意識や姿勢が示されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難マニュアル、緊急連絡体制が作成されている。消防署の指導を得て、通報、消火、避難訓練を6月に実施している。自主避難訓練を1月に実施している。また、10月末の地域の防災訓練には参加予定をしている。次回訓練時には近隣地域に参加の呼びかけを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂食状態を確認し、キザミやとろみ付けなど、食べやすい工夫を取り組んでいる。食事摂取量や水分摂取量は生活日誌に記録し、日々の状態を把握して健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定員6人の小規模なホームであるが食堂兼リビング、台所、廊下、浴室、トイレ等の共用空間はゆったりとしたスペースが確保されている。リビングには写真、絵や手作りの飾りを掛けたり、ソファを配置し、居心地よく落ち着ける生活空間づくりが心がけられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口の壁には本人の写真や手作りの作品を掛けて、自室の位置をわかりやすくする配慮がなされている。居室は写真、小物を飾ったり、家具など本人の馴染みの物を置くなど、自分の居場所として居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		